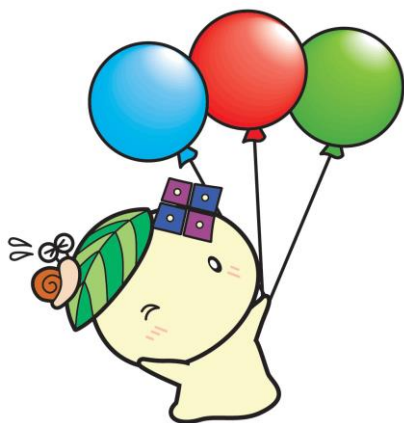


「生野の教育」がめざすもの

～未来を生き抜く力と「まち」を育てる～



生野区長 山口 照美

1. 日本の教育における現状と課題

従来の学校観・教育観からの変化が必要

2. 区がめざす子育て・教育・自立支援とは

「ひとりも取りこぼさない」を合言葉に

3. 「生野の教育」のキーワード

自立（自律）学習／キャリア教育／チーム学校

4. 「次世代の学校づくり」の進め方

西部地区学校再編と区内全校の教育活動支援

5. まとめ

「生野の子」を育て、まちの未来を託す

1. 日本の教育における現状と課題

少子化、こどもの貧困、時代の変化への対応



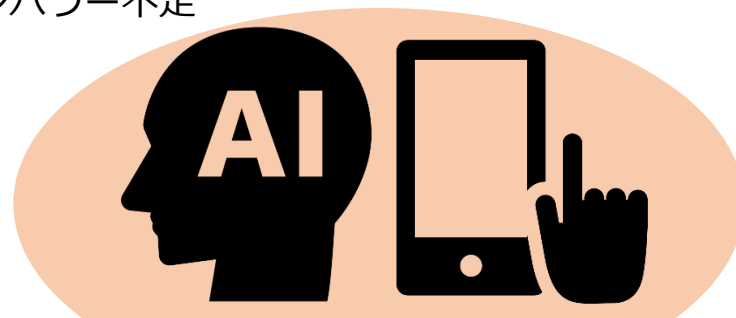
学校の小規模化、教員の多忙化

若手教員の育成や多様化する学校課題への対応に対するマンパワー不足



家庭教育力の低下

「経済格差」や家庭の「手間格差」が家庭学習量や進路選択に影響



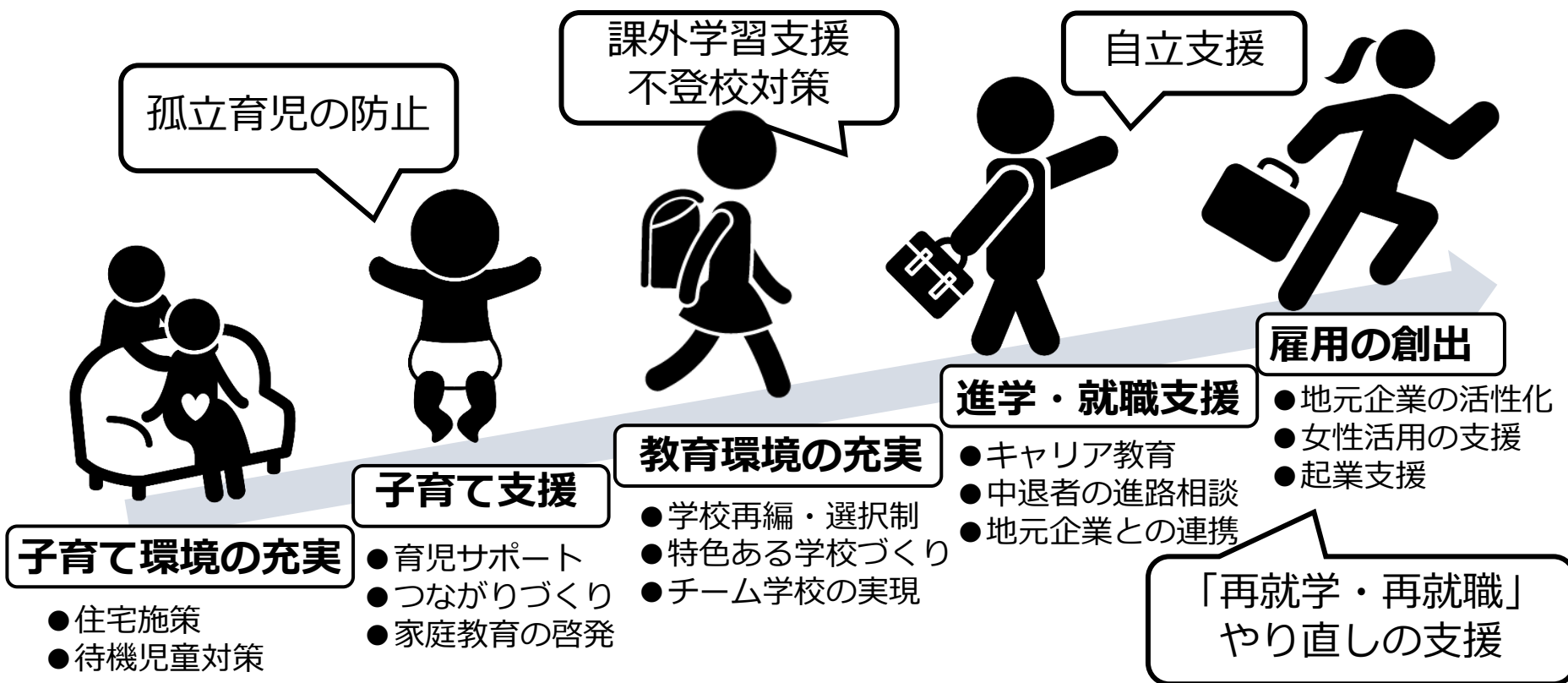
求められる力の変化

人工知能の普及に対する思考力やICT活用能力などの育成が必要

今までの学校観・教育観からの転換が求められている

2. 区がめざす子育て・教育・自立支援とは

「ひとりも取りこぼさない」を合言葉に！



「こども」というバトンを確実に未来へつなぐために
家庭・地域・学校・関連団体・事業者と連携する



3. 「生野の教育」のキーワード①自律学習

自ら課題を設定し、学ぶ力・やりぬく力を育てる

こどもたちが生きる未来とは？

「2011年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、
大学卒業時に**今は存在していない職業に就く**だろう」
(米・デューク大学教授 キャシー・デビットソン)



社会的自立＋変化に対応する力が必要

生野のこどもたちに望むこと

1. 基礎学力を身につけ、適性を伸ばし、社会人として「持ち場」を見つけること。
2. 「世界につながる生野区」で国際感覚を身につけ、多様な人と協働できること。
3. 社会や人生が変化しても「課題を発見し、解決する」力と意欲を持つこと。

公教育としてまず保障すべきなのは、1の「社会的自立」の達成

高校中退を防ぎ、自信を持って進学するための「基礎学力」と、世の中がどれだけ変化しても対応できる「学び方」を身につけて中学を卒業させるには？

学校と連携し「自立(自律)学習」(自ら目標を立てて学習する)ができるこどもを育てる

家庭への啓発

小中一貫した自立学習指導

課外の自立学習支援

学ぶ意欲は「就きたい職業」を持つことから生まれる⇒**キャリア教育の推進**

自立（自律）学習支援の事例



自主学習システムを使ったパソコン
室での自習（大阪市内中学校）



NPO団体による個別指導形式の
無料土曜塾（大阪市内小学校）

こどもが自主的に学習できる環境や支援を整備する

3. 「生野の教育」のキーワード②キャリア教育

人生100年時代の「キャリア教育」を生野から発信

「2007年生まれの日本のこどもは、半数が107歳まで生きる」
「学習～労働～65歳で引退という従来の人生設計は崩れ、**80歳まで学び続け、働き続ける『マルチライフステージ』の時代**となる」

（『ライフ・シフト～100年時代の人生戦略』リンダ・グラットン）



●次期学習指導要領（答申）概要「キャリア教育（進路指導を含む）」より

小・中・高等学校を見通した**充実**を図るため、キャリア教育の中核となる特別活動の役割を一層明確にするとともに、「キャリア・パスポート（仮称）」の活用を図る。

キャリア教育の実施に当たっては、**地域との連携・協働を進めていく**必要がある。また、これまでの進路指導の実践をキャリア教育の視点からとらえなおしていく。

生野のキャリア教育

- ① 小中一貫したキャリア教育カリキュラムおよび「キャリアパスポート」の作成
- ② 労働者の権利や幅広い職業観を学ぶ「働き続けるためのキャリア教育」の実施
- ③ 「ものづくり・観光・ソーシャルビジネス」といった、地域特性や将来性のある分野の体験講座やゲストティーチャーの充実（地域・外部連携）
- ④ 地域の企業や職業人と連携し、「生野で働く・起業する」イメージを喚起

キャリア教育の事例



プログラミング授業を通じてゲーム企画・制作の仕事を体験する
(大阪市内小学校)

学校が取り入れやすいキャリア教育の授業やICT活用の支援

3. 「生野の教育」のキーワード③チーム学校

教育活動をサポートする外部連携を充実させる

「こどもを伸ばす学校」の根幹は「いい授業」

教師の時間を授業とこどもに向ける支援を行う

キャリア教育支援



登校見守り



学校



部活動支援



SSW・SC
などの相談



課外学習・
日本語指導



行政・地域・事業者・各種団体・異校種の連携で次世代の「チーム学校」を実現する

チーム学校の事例



部活動の指導員・コーチ等の外部人材活用（大阪市内中学校）

学校ニーズに応じた外部人材・専門人材の派遣を支援

4. 「次世代の学校づくり」の進め方

「生野の教育」を推進し、こどもと教師を育てる

①校長のマネジメントによる「特色ある学校づくり」支援

⇒地域性や学校課題を踏まえた「特色ある学校づくり」を実現し、将来的には学校選択制を全区導入し、児童生徒の選択肢を広げる

②「ソフト・ハード・校舎跡地活用」の3視点で取り組む

⇒教育内容（ソフト）を市教委と学校の連携で作し、校舎や通学路の安全等（ハード）を区と市教委・学校・地域の連携で計画する。
校舎の跡地活用については、防災とまちづくりの観点で取り組む。

③単学級を解消し、こどもと教師が学びあえる環境を整備

⇒小規模校のきめ細やかさを「チーム学校」の推進で維持しながら、教師とこどもの学びあいが充実する規模・設備を整えていく。

現在の「生野区西部地域学校再編計画（案）」をベースに学校・地域との意見交換を重ねた上で、H29年度中に具体的なスケジュールを中学校区ごとに示していく

5. まとめ ～生野の子を未来へ送り出すために～

「生野のええところ」を活かした体験機会の充実を

ものづくり企業・
中小企業の多さ

地域によるキャリア教育
体験活動の充実

文化・伝統・食の魅力
地域ごとの個性

地域の魅力を発見し、
発信する言語活動など



主体的な地域活動
で課題を解決する

地域と連携し、まちの
課題解決を考える体験

世界につながる
多文化共生のまち

お互いを知り、認めあう
コミュニケーション体験

「ひとりも取りこぼさない」公教育と行政の使命を果たし、
次世代の「学校づくり」と「まちづくり」を両輪で実現する